

答申後の検討事項について

1 推進プロジェクト

推進プロジェクトは、本市の自然環境の特性を踏まえ、「森」、「里」、「街・川」の3つのフィールドで、生物多様性の課題の解決をテーマに進めるものとする。

また、推進プロジェクトは、目標1～4の取組と一体的に推進するものとし、誰もが「自分ごと」として生物多様性のための行動を起こすきっかけとなるよう、多様な主体を巻き込んで取り組むものとする。

<推進プロジェクトの概要>

① 恵み豊かな森づくりプロジェクト

森林は、多様な生きものの生息場所であるとともに、土砂災害の防止や良質な水を育む涵養機能など、私たちの安心安全な暮らしに欠かせないものであることから、森林資源を持続的に利用し、シカ等の食害への対策を進めることで、劣化した森林植生を再生し、森林環境の回復を目指す。

② 食と農業プロジェクト

農地は、生きものの重要な生息地であるだけでなく、美しい景観や防災・減災機能など、私たちの生活に様々な恵みをもたらすものであることから、環境に配慮した安全安心な農産物の生産・消費を促進することで、多面的機能が発揮される持続可能な農業の推進を目指す。

③ 水と緑のネットワーク形成プロジェクト

市街地の緑地や河川は、それぞれに豊かな生態系を形成するとともに、森や里の動物の移動を助け、市域全体の生物多様性を支えていることから、市街地の緑化や生物多様性に配慮した川づくりを推進することで、水辺と緑地の連続性を確保し、生態系ネットワークが確保されたまちづくりを目指す。

★ 議論いただきたい点

- (1) 各プロジェクトにおいて、具体的にどのような取組を行うべきか。
- (2) 多様な主体を巻き込むためにどのような手法が考えられるか。

2 評価方法

ポスト愛知目標や生物多様性国家戦略が示されるまでの当面の間の評価方法を検討する必要がある。

評価方法については、これまでの議論で、「生物多様性の状態を端的に表す指標はなく、統計値や事業実績などの個々の増減のみの評価はなじまない」ことを確認し、複数の客観的・主観的指標を設定し、指標ごとの評価を行ったうえで、各目標・達成項目の達成状況を総合的に判断することとしている。

また、足立委員からは、2030年の達成項目ごとに、より詳細な評価項目を設定し、評価する方法を御提案いただいた。

★ 議論いただきたい点

当面の評価方法は、足立委員の御意見を踏まえ、「2030年度までの目標」の「達成項目」ごとに「評価項目」を設定し、関連する指標で評価するのはどうか。

<評価のイメージ>

2030 目標	達成項目	評価項目	評価指標
目標 1 京都らしさを支える生物多様性の持続可能な利用を図る。	① 京都の文化を支える生物資源を持続的に利用する。	(a) 文化を支える生物資源を特定する。	・文化を支える生物資源の特定数
		(b) 生物資源の現存量を把握する。	・京都産チマキザサの生産面積 ・ハゼ実生苗の育成本数 ・アユの遡上数
		(c) 保全策を実施する。	・「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト」参加団体数
		(d) 実施状況进行评估する。	・現存量の増加率（前年度比）
	② 自然が持つ多様な機能を活用して、レジリエンスの向上を図る。	(a) 気候変動への適応策として、緑被率を向上させる	・緑被率
		(b) 雨水流出抑制、水質浄化、ヒートアイランド現象の緩和等の効果を持つ、雨庭を整備する	・雨庭の設置数
		(c) 生態系に配慮された水辺環境を整備する。	・多自然川づくりの実績